寒山拾得縁起

森鷗外

青空文庫

徒然草つれづれぐさに最初の仏はどうして出来たかと問われて困ったというような話があった。子供に物を問われて困ることはたびたびである。中にも宗教上のことには、答に窮することが多い。しかしそれを拒んで答えずにしまうのは、ほとんどそれは謙うそだというと同じようになる。近ごろ帰一協会などでは、それを子供のために悪いと言って気づかっている。

寒山詩が所々しよしよで活字本にして出されるので、私のうちの子供がその広告を読んで買ってもらいたいと言った。

「それは漢字ばかりで書いた本で、お前にはまだ読めない」と言うと、重ねて「どんなことが書いてあります」と問う。多分広告に、修養のために読むべき書だというようなことが書いてあったので、子供が熱心に内容を知りたく思ったのであろう。

私はとりあえずこんなことを言った。床の間にさきごろかけてあった画をおぼえているだろう。唐子からこのような人が二人で笑っていた。あれが寒山と拾得とをかけたものである。寒山詩はその寒山の作った詩なのだ。詩はなかなかむずかしいと言った。

子供は少し見当がついたらしい様子で、「詩はむずかしくてわからないかもしれません、その寒山という人だの、それと一しよにいる拾得という人だのは、どんな人ぞごさい

ます」と言った。私はやむことを得ないで、寒山拾得の話をした。

私はちようどそのとき、何か一つ話を書いてもらいたいと頼まれていたので、子供にした話を、ほとんどそのまま書いた。いつもと違って、一冊の参考書をも見ずに書いたのである。

この「寒山拾得」という話は、まだ書肆しよしの手にわたしはせぬが、多分新小説に出ることになるだろう。

子供はこの話には満足しなかった。大人の読者はおそらくは一層満足しないだろう。子供には、話したあとでいろいろのことを問われて、私はまたやむことを得ずに、いろいろなことを答えたが、それをことごとく書くことは出来ない。最も窮したのは、寒山が文殊で拾得は普賢だと言ったために、文殊だの普賢だののことを問われ、それをどうかこうか答えるとまたその文殊が寒山で、普賢が拾得だというのがわからぬと言われたときである。私はとうとう宮崎虎之助さんのことを話した。宮崎さんはメツシアスだと自分で言っていて、またそのメツシアスを拝みに往く人もあるからである。これは現在にある例で説明したら、幾らかわかりやすかろうと思っただからである。

しかしこの説明は功を奏せなかった。子供には昔の寒山が文殊であったのがわからぬと

同じく、今の宮崎さんがメツシアスであるのがわからなかった。私は一つの関を躓^こえて、また一つの関に出逢ったように思った。そしてとうとうこう言った。「実はパパアも文殊なのだが、まだ誰も拝みに来ないのだよ」

大正五年一月

青空文庫情報

底本：「日本の文学3 森鷗外（二）」 中央公論社

1967（昭和42）年2月4日初版発行

入力：佐野良二

校正：伊藤時也

2000年9月12日公開

2004年12月4日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

寒山拾得縁起

森鷗外

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>